

**公益財団法人畑崎財団**  
**平成26年度 事業報告書**

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

■理事の変更

平成26年11月13日、貝原俊民氏のご逝去により、同年11月26日付、齋藤富雄氏が就任された。

■公益目的事業について

事業番号	事業の内容	事業比率
公1	最先端の医療の研究及び開発事業	69.6%

事業費 16,306,227 円

【趣旨】

わが国が、いま成熟した長寿社会に移行しつつあるなかにあつて、ファッションブルエージング（年を重ねても明るく健康で内面も充実した生き方）を目指し、スマートでファッションブル（元気で気持ちも前向きで、それが装いや行動にあらわれ活動できる）に明るく健康な社会づくりに貢献するため、健康づくりに関わりのある最先端の医療の研究、開発を行い、その内容を広く発信する。

【事業実施内容】

○研究内容

(1) 小動物前臨床試験：脂肪由来間葉系幹細胞の脳血管障害に対する治療効果の検証

脳血管閉塞モデルマウス (C.B-17) を用いた脳梗塞慢性期 (脳梗塞発症 1 か月後以降) における有血清・無血清培養を行った mAdSC の投与を行って、その効果性と安全性の検証を行った。また、リハビリテーション負荷の有無における神経機能回復促進効果に関する検討も行った。運動機能に関するテストでは、細胞投与群においてロタロッドテストで優れている傾向が観察されたが、他の行動機能テストを含めて有意な差を示すことはできなかった。脳の組織学的な観察においても、脳梗塞サイズやマクロファージ、血管数などに関して細胞投与による治療の効果は示されなかった。有血清にて培養を行った細胞群の投与では、死亡個体が見られたが、無血清培養の細胞群には見られなかったことから、無血清培養した細胞は安全性に優れていると考えられた。

(2) 小動物前臨床試験：脂肪由来間葉系幹細胞のアトピー性皮膚炎に対する治療効果の検証

モデルマウス (NC/Nga) を用いて急性期および慢性期で、有血清・無血

清培養を行ったマウス脂肪由来間葉系幹細胞(mAdSC)の投与を行って、その安全性と効果性の検証を行った。アトピー性皮膚炎の重症度判定には、皮疹の程度と拡大で判定し、参考として、血液検査（血清総IgE、血中好酸球数、特異的IgE抗体価、血清TARC値など）が行われる。急性期および慢性期のモデルにおいて、無血清培養を行ったmAdSCを投与すると皮膚症状が改善される傾向にあった。血液性状（血清総IgE）についても一過性ではあるが減少傾向にあった。また、皮膚組織切片についても有意に炎症系細胞の浸潤・活性化を抑制していることが示された。さらに、モデルマウスの知見を基にAdSC培養液を用いたin vitro系のバイオアッセイを行ったところ、白血球などの遊走を引き起こし炎症の形成に関与するケモカインの産生に対して抑制作用があることがわかった。これらの知見を踏まえた臨床応用を模索中である。

平成25年5月1日から継続していた公益財団法人先端医療振興財団とファースト・ステムセル・ジャパン株式会社との再生医療の共同研究については、上記の研究成果を得たことにより、平成26年12月末日をもって終了した。

この研究成果をもとに臨床応用に向けて更に加速するため、平成27年3月5日付で、兵庫医科大学とファースト・ステムセル・ジャパン株式会社と、脳梗塞治療に絞り込んだ以下の共同研究契約を締結し、事業を推進している。

#### 1 研究題目

脂肪幹細胞移植による脳梗塞治療法の開発

#### 2 研究目的

ヒト脂肪組織由来幹細胞（Adipose-derived stem cell: ADSC）移植による脳梗塞治療を臨床応用するために、その至適条件決定と安全性確認を行うことを目的とする。

#### 3 研究内容

ヒト脂肪組織からADSCを分離培養する方法を確立する。次に脳梗塞モデル細胞に投与し、その至適時期と投与ルートなどの条件を確定する。自己移植と細胞製剤開発の二つの方向性で研究を行い、その後、臨床応用する。

#### 4 研究分担

当財団

研究全般における統括、調整

兵庫医科大学

脂肪幹細胞の分離培養、臨床応用、CPCにおける調整、細胞移植実施  
ファースト・ステムセル・ジャパン株式会社

脂肪幹細胞の分離培養、脂肪幹細胞移植に関する基礎研究

#### 5 研究実施場所

兵庫医科大学病院内、ファースト・ステムセル・ジャパン株式会社、公益財団法人畑崎財団

#### 6 研究スケジュール

平成27-28年度に培養条件を決定し、平成29年度に臨床応用を開始する。

事業番号	事業の内容	事業比率
公2	地域活動表彰事業	18.0%

事業費 4,214,534 円

### 【趣旨】

畑崎ファッションナブルエージング賞（以下、畑崎賞という）は、ファッションナブルエージング（年を重ねても明るく健康で内面が充実した生き方）を実現するため、有意義な地域活動を行う個人又は団体を顕彰する。

### ○対象者

- (1) 健康づくり分野 (Health)  
健康増進、リハビリ、スポーツ等の分野
- (2) 知的活動分野 (Head)  
学習、芸術文化、研究開発、就労等の分野
- (3) 社会奉仕活動分野 (Heart)  
福祉、ボランティア、地域活動、国際貢献等の分野

兵庫県内の個人・団体又は兵庫県にゆかりのある個人・団体

### ○選考方法

県、市町、関係団体等からの推薦に基づき、選考委員会の審査を得て、理事長が決定する。

### ○受賞者数

1年間の受賞者数は、各分野毎に2件以内  
賞状及び副賞1件につき50万円以内を贈呈。受賞者の栄誉を称え、贈呈式を行う。

### 【事業実施内容】

平成26年7月1日

#### 選考委員就任

委員長	新野幸次郎	公益財団法人神戸市都市問題研究所	理事長
委員	貝原俊民	一般財団法人地域政策研究会	理事長
	菊池晴彦	地方独立行政法人神戸市民病院機構	理事長
	木村光利	公益財団法人兵庫県芸術文化協会	理事長
	高士 薫	株式会社神戸新聞社	代表取締役社長
	畑崎美代子	公益財団法人畑崎財団	評議員

貝原俊民氏は、平成26年11月13日、ご逝去のため、同年11月26日付

齋藤富雄氏が就任。

齋藤富雄 公益財団法人兵庫県国際交流協会 理事長

平成26年7月22日

第2回畑崎記念ファッションナブルエージング賞 第1回選考委員会開催（於  
ホテルオークラ神戸）

畑崎賞の実施要領、委員会設置要項、選考基準、選考スケジュールの確定

平成26年10月1日

県、市町、関係団体、合計70件に推薦依頼

平成26年11月30日

36件の推薦

平成26年12月12日

事前選考検討会実施（於 当財団事務所）

平成27年1月27日

第2回選考委員会開催（於 当財団事務所）

理事長承認、受賞者決定

①健康づくり分野（Health）

中野 篤（産婦人科医）

井口 みさゑ（西播断酒会 顧問）

②知的活動分野（Head）

井上 正康（杉原紙研究所 技術顧問）

③社会奉仕活動分野（Heart）

二見 治子（人生80年時代を模索する会 会長）

下村 英規（無職）

（敬称略）

平成27年3月10日

第2回畑崎記念ファッションナブルエージング賞表彰式実施（於 神戸国際会館）

※事業報告の附属明細書については、平成26年度事業報告書に含むものとする。

以上